

日本電気泳動学会 服部賞受賞者

回(受賞年)	受賞者	所属	受賞講演 演題 (賞状番号)
第1回(2001年春季)	縄田 修吾	山口大学医学部・産婦人科	電気泳動法を利用した扁平上皮癌組織中SCC抗原蛋白の熱安定性の解析
第2回(2001年)	杉本 佳代	東京医科歯科大学大学院・保健衛生	アガロースゲルを支持体とする分子サイズによる分析法の考案 --ミュービッド電気泳動装置の新たな使用法-
第3回(2002年)	高橋 幸子	昭和大学歯学部	高感度銀染色法を用いたセルロースアセテート膜電気泳動における唾液中δンパク分画と正常値の設定
第4回(2003年)	石川 仁子	浜松医科大学・検査部	悪性胚細胞性腫瘍患者に認められた高LD-1血症はLDHA遺伝子プロモーターのメチル化による
	請川 亮	横浜市立大学大学院・木原生物学研究所	細胞老化におけるプロテオーム解析
第5回(2004年)	町田 涼子	東京医科歯科大学大学院・保健衛生	尿中α1アンチトリプシンの分子多様性:セルロースアセテート電気泳動によるα1グロブリン分画欠失についての検討
	重村 雅彦	北海道大学附属病院・検査部	骨髄腫細胞は sialyl salivary-type amylase を産生する
第6回(2005年)	浦本 武	浜松医科大学・臨床検査医学	RT-PCR-SSCPIによるアミラーゼ遺伝子の発現型プロファイリング
	中山 亜紀	東京医科歯科大学大学院・保健衛生学研究科	循環器疾患患者における尿中免疫非応答性アルブミンの解析
第7回(2006年)	木下 英司	広島大学大学院・医歯薬学総合研究科	リン酸化プロテオーム解析に向けた新しい電気泳動法の開発ーキナーゼプロファイリング法としての実用化
	石垣 宏尚	信州大学医学部・保健学科	Monoclonal IgA が反応する Hep-2 細胞成分の解析
第8回(2007年)	増石 有佑	横浜市立大学大学院・国際総合科学研究科	卵巣明細胞腺癌におけるアネキシンIVの発現上昇とそのメカニズム
	高橋 広樹	北里大学理学部・生体分子動力学	血清を対象とした疾患プロテオミクス
第9回(2008年)	中島 学	麻布大学大学院・環境保健学	鶏卵黄中に含まれるメジャーアレルゲンの特徴ならびにマイナー蛋白質の解析
	阿部 雅仁	信州大学大学院・医学研究科	総ビリルビン測定に影響を及ぼす monoclonal IgM の解析
第10回(2009年)	片山 史子	信州大学医学部保健学科	二峰性monoclonal IgA例に認められた IgA-アルブミン複合体の性状
	松野 裕樹	産業技術総合研究センター	分子マトリックス電気泳動法ー糖蛋白質解析の新規ツール
第11回(2010年)	武藤 太和	国立がん研究センター研究所	臨床検体と大型蛍光二次元電気泳動法を用いた大腸がんのプロテオーム解析
	田村 彰吾	北海道大学大学院保健科学院	Major royal jelly protein 1 (MRJP1) oligomer構成低分子蛋白質Apisiminの分子特性解析
第12回(2011年)	野村 文子	横浜市立大学先端医科学研究センター	血管型NADPHオキシダーゼの標的タンパク質の解析
	小林 信	北里大学大学院医療系研究科応用腫瘍病理学	肺腺癌における同一患者組織・血清を用いた早期血清診断マーカーの探索
第13回(2012年)	伊東 愛美	北海道大学大学院	ローヤルゼリータンパク質MRJP1 の熱処理による影響 -分子の変化と細胞増殖促進作用
	宮城 聡子	麻布大・生命・環境科学部食品生化学	トロピカルフルーツによるレンサ球菌産生溶血毒素阻害能の検討
第14回(2013年)	久保田 裕二	東京大学医科学研究所 分子シグナル制御分野	Ras/MAPK症候群および孤発性癌で認められるMEK遺伝子変異体の異常活性化機構と疾患発症メカニズムの解明
	芝 晃生	広島大学大学院医歯薬学総合研究科	ヒスチジン, アスパラギン酸のタンパク質リン酸化解析におけるチオリン酸基供与体(ATP-γS)利用の有用性の検討
第15回(2014年)	藤井 一恭	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 皮膚科	電気泳動法を用いたプロテオーム解析による皮膚悪性腫瘍における新規治療法のための基盤的研究と臨床応用 (第26号)
第16回(2015年)	井野 洋子	横浜市立大学先端医科学研究センター	共通の内部標準を用いた補正によるPro-Q Diamond染色リン酸化δンパク質二次元電気泳動スポットの比較定量解析 (第27号)
第17回(2016年)	該当者なし		
第18回(2017年)	杉山 康憲	香川大学農学部 応用生物科学科	マルàPK抗体を利用したプロテインキナーゼ研究 (第28号)
	柳田 憲吾	北里大学医療衛生学部 臨床検査学	ショットガン・プロテオミクス法による肺癌の新規膜抗原タンパク質の獲得と血清診断への応用 (第29号)
第19回(2018年)	長塩 亮	北里大学医療衛生学部 臨床検査学	二次元電気泳動法を利用した腫瘍マーカー候補タンパク質の獲得 (第30号)
第20回(2019年)	該当者なし		
第21回(2020年)	小松 徹	東京大学大学院薬学系研究科	Diced electrophoresis gel アッセイ法を用いた疾患関連酵素の探索(第31号)
第22回(2021年)	川井 隆之	九州大学 大学院理学研究院 化学部門	革新的オンライン試料濃縮技術に基づく超高感度キャピラリー電気泳動法の開発と応用(第32号)
第22回(2021年)	松本 俊英	北里大学医学部病理学	卵巣明細胞癌の新規バイオマーカー探索とその機能解析:病理検体を用いたショットガンプロテオミクス法(第33号)
第23回(2022年)	野口 玲	国立がん研究センター希少がん研究分野	ゲノムより面白い!プロテオームを加えたマルチオミクスだ!:がんのプロテオゲノミクス解析と網羅的キナーゼ活性解析(第34号)